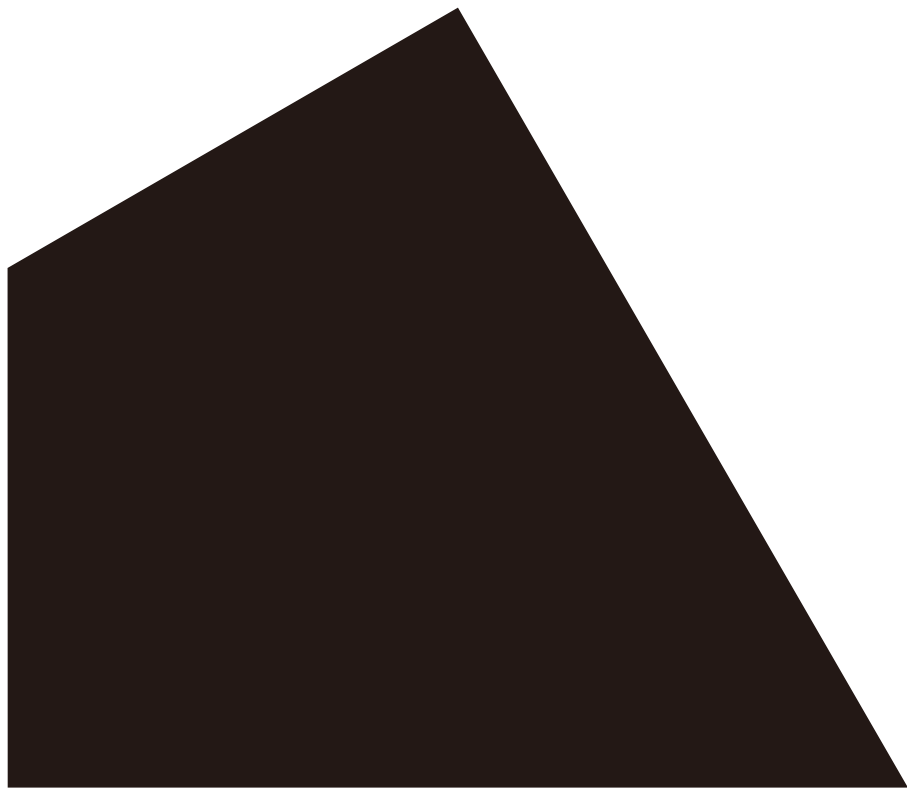


文
化

Culture



こころと形

香り、芸能、工芸。京都を代表するこれらの伝統文化は、
無数の時を経て姿形を変化させながら現代に受け継がれています。
その“こころ”を汲み、さらなる継承や発展に挑む担い手たちの試みをご紹介します。

Mind and Form

Fragrances, performing arts, and crafts. These elements of traditional culture are representative of Kyoto and have been passed down to the present day, slowly transforming over countless years. Enjoy an introduction to the efforts of those striving to inherit, develop, and pass on this spirit.

- 1 KYOTO FUKU
KYOTO FUKU
- 2 能と伝統文化を世界に広める会
Association for Promoting Noh & Traditional Culture Worldwide
- 3 合同会社Byaku
ByakuLLC
- 4 高野竹工株式会社
Takano Chikko Co.,Ltd

1

伝統文化を楽しみ、未来へつなげる

伝統文化を未来につなぐ

私たちは、日本の伝統文化と、それらを支える伝統産業の普及と伝承をめざし、ワークショップや公演、お茶会などを国内外で開催しています。各分野の材料や技術者の確保の難しさを伝えるため、皆様に本物を鑑賞、体験していただけるよう活動し未来へつないでいきます。

様々な形でみる「藤」

「藤娘」は藤の花の精が娘姿となって踊る、可憐で華やかな日本舞踊です。蒔絵と螺鈿で描かれた藤の花と一緒に楽しみください。

ニッポン画家・山本太郎氏とコラボレーション

日本の古典絵画と現代の風俗が融合するニッポン画家・山本太郎氏（京都美術工芸大学特任教授・2015年 京都府文化賞奨励賞受賞）と扇を制作。万博のために特別に描かれた絵が「藤娘」を華やかに演出します。



KYOTO FUKU
京都市北区



©Taro YAMAMOTO,
Courtesy of imura art gallery

2

Noh to the World

能の世界観を世界へ

能の象徴「能面」と「扇」を展示

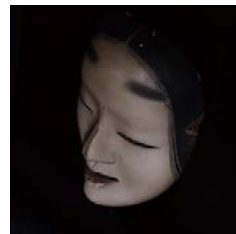
細やかな彫刻や表情に込められた感情が鮮明に浮かび上がり、能が持つ神秘性や迫力を体感できます。まるで能舞台に招かれたような没入感をお楽しみください。

能をめぐる伝統工芸

能の舞台に欠かせない「扇」など、能にまつわる伝統工芸品を展示。シンプルなデザインに込められた日本の伝統文化と美意識をお楽しみください。

京都市内の能舞台をペーパークラフトに

屋根の曲線や橋がかり（舞台と楽屋を繋ぐ橋）など、能舞台独自の建築様式を細部まで再現。ペーパークラフトだからこそ表現できる立体的な美しさを、さまざまな角度からご覧ください。



能と伝統文化を世界に広める会
京田辺市興戸

3

幽玄の彩りにおける白檀の香り

びやくだん

白檀の育ち方

白檀は寄り添う木がないと大きく育つことができず、寄り添う木の種類によって香りの方向性も大きく変わります。Byakuでは、森を感じるような華やかさのある珍しい白檀を使っています。

京文化と白檀

白檀は平安時代から京都で深い繋がりがあり、仏教や香道、茶道でも重宝されてきました。線香や焼香にもよく使われ、心を落ち着かせる香りとしても有名です。

香りの紡ぎ方

白檀から抽出した貴重な精油を使用した、京都発の自然由来成分100%オーガニックミスト。京料理の手法により強く長く香らせることを目的とせず、静かに満ちては消えゆく香りのドラマを提供します。



合同会社Byaku

京都市左京区岩倉幡枝町601番地21



4-1

受け継がれる素材と手仕事 竹の里・長岡京 高野竹工(ちっこう)

竹林から始まるモノづくり

高野竹工のモノづくりに欠かせない竹。材料となる竹の材質へのこだわりと竹林とその周辺環境への意識から、高野竹工では竹林の整備・管理を自社で行い、伐採から製品づくりまで一貫して行っています。

茶道具づくりで培われた技と感性

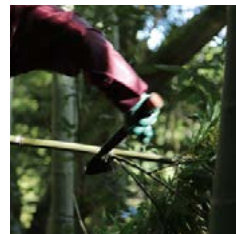
総合芸術とも言われる「茶道」では、長い時間をかけて日本独自の美意識が醸成されました。高野竹工では、茶道具づくりで培った技や感性がジャンルを超えて受け継がれています。

様々な専門の職人が集う工房

竹林管理、竹工芸をはじめ、指物、漆、蒔絵など様々な専門の職人が集い、茶道具から暮らしの道具まで多岐にわたるモノづくりをしています。



高野竹工株式会社
長岡京市勝竜寺東落辺14-15



4-2

高野竹工

竹工芸と古材のアップサイクル

役目を終えた古材で作る茶道具

禅寺妙喜庵に佇む、千利休作と言われる現存する最古の茶室「待庵」。その改修の際に出た古材が、高野竹工の職人の手により茶道具として生まれ変わります。古材茶箱に茶入れや竹のお道具を取り合わせて。

竹の暮らしの道具

古来より日本の暮らしに溶け込んでいた竹の道具。プラスチックの大量生産品の普及により竹の活用が減少し、放置竹林の問題を引き起こしています。そんな中「竹」本来の強さやしなやかさを活かした暮らしの道具が、再び脚光を浴びています。

根竹の酒器

一本の竹の根元を活かした酒器。削られた根っこの跡が数珠目のような独特な紋様を描きます。竹の形をそのまま活かした形状で、同じものは二つとありません。



高野竹工株式会社

長岡京市勝竜寺東落辺14-15



京瓦「キモノタイル」に覆われた 空間デザインと映像・音楽によるノンバーバル表現

オリジナルの京瓦「キモノタイル」によって
質感を統一したミニマルかつ静謐な空間を通じて、
来場者がじっくりと京都の未来と過去に
向き合えるような体験を創出します。
さらに、そこに加わるノンバーバルな映像と音響は、
空間と一体となりながらその多面的な魅力を物語ります。



映像紹介



八幡宮大杉

撮影地：中川八幡宮（京都市北区）



北山杉の生える山

撮影地：北山林業地（京都市北区）



建仁寺垣を作る手

撮影地：三木竹材店（京都市南区）

協力者：三木竹材店



白竹の磨きをする手

撮影地：三木竹材店（京都市南区）

協力者：三木竹材店



できたばかりの建仁寺垣

撮影地：三木竹材店（京都市南区）

協力者：三木竹材店



紙漉きをする手

撮影地：黒谷和紙会館（京都府綾部市）

協力者：黒谷和紙協同組合



漉きたての和紙の耳

撮影地：黒谷和紙会館（京都府綾部市）

協力者：黒谷和紙協同組合



雲海

撮影地：かめおか霧のテラス（京都府亀岡市）

映像紹介



丹後ちりめん

撮影地：スタジオ(京都府京丹後市)
(京都府与謝郡与謝野町)
協力者：丹後織物工業組合



ジャガードの紋紙(もんがみ)

撮影地：株式会社川島織物セルコン
(京都市左京区)
協力者：株式会社川島織物セルコン



京焼

撮影地：スタジオ(京都市東山区)



回るろくろの上で形になる土塊

撮影地：瑞光窯(京都市東山区)
協力者：瑞光窯 東山工房店



おおすみはやとまい

大住隼人舞の盾

撮影地：スタジオ(京都府京田辺市)
協力者：大住隼人舞保存会



おしお

まつ

小塩の上げ松

撮影地：京都市右京区京北小塩町(京都市右京区)
協力者：小塩上げ松保存会



能面(小面)

撮影地：スタジオ
協力者：能面師 宇高景子



比叡山山麓から見た京都と大阪の夜景

撮影地：登仙台展望台(京都市左京区)

映像紹介



らくちゅうらくがいづびょうふ ふなきほん
洛中洛外図屏風(丹木本)

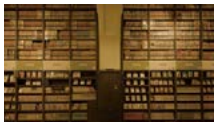
いわさまたべえ
岩佐又兵衛

協力者:東京国立博物館蔵



そでし たなだ
袖志の棚田

撮影地:京丹後市丹後町(京都府京丹後市)



京都国際マンガミュージアムの書架
「マンガの壁」

撮影地:京都国際マンガミュージアム
(京都市中京区)

協力者:京都国際マンガミュージアム



香炉から香が立ちのぼる様子

撮影地:スタジオ



マンガ作画の様子

撮影地:京都国際マンガミュージアム
(京都市中京区)

協力者:京都国際マンガミュージアム



鏡板

撮影地:金剛能楽堂(京都市上京区)

協力者:金剛能楽堂

じゅんおんはいけい

巡音拝景

京都府の今の音と、文献などに記述された音をあつめ、
そこに新たな音を配置(Composition=作曲)して制作する。

1996年に環境省(当時環境庁)は「全国各地で人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境(音風景)を広く公募し、音環境を保全する上で特に意義があると認められるもの」として「残したい“日本の音風景100選”」を選定した。それから約30年が経ち、改めて京都府の音を取り上げる。温暖化が加速し、四季が失われつつある現代において山や森林など木々は大変重要で貴重なものである。京都府には豊かな自然があり、美しい音が存在している。自然がこれからも失われないことを祈りながらフィールドレコーディングをした。前述の「音風景100選」で取り上げられたものに加え、新録している。

さらに文学の中にも多くの音の記述がある。録音技術が生まれる以前には古来から人々はことばを使って音を集めた。こういった音を集めることもフィールドレコーディングである。

フィールドレコーディングリスト

Part-1 るり溪(南丹市) 船着場(伊根町) 舞鶴港(舞鶴市) 宮津湾(宮津市) 石清水八幡宮(八幡市)

Part-2 京都御所玉砂利(京都市) 清水寺(京都市) 鹿(京都市) 大江山(福知山市) ちりめん街道 天満神社(与謝野町)

Part-3 琴引浜(京丹後市) 琴滝(京丹波町) 宇治川(宇治市) 真福寺水琴窟(亀岡市) 妙心寺(退蔵院) 水琴窟(京都市)

Part-4 綾部大橋由良川(綾部市) 美濃山竹林(八幡市) 興聖寺(宇治市) 古世親水公園(亀岡市) 詩仙堂鹿おどし(京都市)

御香宮神社(京都市) 雷雨(京都市)

記述されたものからのフィールドレコーディングリスト

大原『平家物語』 鐘の音、鹿の音、虫の音

野宮『源氏物語』 虫の音、松風の音、雅楽の楽器の音

宇治『万葉集』 宇治川にして作る歌二首 1699-1700 雁の鳴き声、川の音

法成寺『栄花物語』 卷第十七「おむがく」 雅楽の演奏音

丹後『丹後国風土記』 逸文 嘆く声、歌

福知山『大江山絵詞』 雷、田楽

石清水八幡宮 世阿弥 能『弓八幡』、『放生川』 不思議な音楽、夜神楽の音

法勝寺『弁内侍日記』 後戸猿楽、鈴の音

谷崎潤一郎 潺湲亭「夢の浮橋」 添水(しおどし)の音

琴弾浜 木内石亭『雲根志』 海辺の砂浜の音

『蜻蛉日記』 車の音

『洛陽田楽記』 永長の大田楽

作・編曲:原 摩利彦

ギター:Polar M

フィールドレコーディング協力:村中真澄

リサーチ協力:原 瑠璃彦

音響デザイン:中原楽(KARABINER inc.)

株式会社 大城音響事務所

制作:MH Studio Inc. / TSUYURI

空間デザイン協力	Space design cooperation
Sandwich	Sandwich
京瓦タイル「キモノタイル」製作協力	Kyoto tile "Kimono tile" production cooperation
株式会社京瓦 浅田製瓦工場	ASADA KAWARA FACTORY
テーマ映像制作	Theme video production
株式会社 青空	AQZORA,LTD
テーマ音楽制作	Theme music production
原 摩利彦	Marihiko Hara

大阪・関西万博きょうと推進委員会